

加齢研ニュース

令和元年6月1日
東北大学加齢医学研究所
研究会同窓会発行

【所長室便り】

川 島 隆 太

新元号が「令和」に決まりました。慣れるまでは何とも「いずい」ですが、書類書きをしているうちにしっくりとしてくるのでしょうか。平成最後の所長である私の、所長任期も残すところあと1年間弱となりました。まだ総括には早いですが、新しい時代への橋渡しのお手伝いを少しはできたのではないかと自負しています。

所長選挙は、例年秋口に行うのですが、今年は前倒しをして4月に行います。この加齢研ニュースが発行される時には、次年度以降の新所長が内定している予定です。選挙を前倒した一番の理由は、2020年度に全国共同利用・共同研究拠点協議会の会長機関になることが決まっているからです。拠点協議会会長として、拠点協議会の運営の他、第二期中期目標期間の拠点の活動評価方法、第三期の拠点認定につき文科省学術機関課と折衝を行うなど、極めて重要な任務を担うこととなります。次期所長（内

定者）には、運営を学ぶため、今年度の拠点協議会の幹事会にオブザーバー参加してもらうこととなります。

次期所長は、その他にも国立大学法人として第二期中期計画の総括、第三期中期計画の策定、半数近い教授陣が入れ替わる加齢研2025年問題への対策など、重要責務がたくさんあります。加齢研の大いなる飛躍を先導していただけることを祈念しています。

昨年度は、いろいろと花火を打ち上げたのですが、それぞれ不発で不満の残る一年でした。今年度予算分の概算要求では、スマート・エイジング学際重点研究センター分を含め、継続案件は何の波乱もなく昨年度と同様の措置がなされました。しかし、加齢研の未来の老化基礎研究の方向性を明確に打ち出した、共同利用・共同研究拠点の強化事業「環境応答研究センター構築事業」では、文部科学省から財務省に要求があがりませんでした。

また国際共同利用・共同研究拠点への応募も実現できませんでした。文科省の当初の説明とは異

加齢研ニュース 第71号 目次

所長室便り（川島 隆太）	1
分野紹介（認知健康科学研究分野）	3
随想（佐藤 靖史）	5
研究会便り（家村 顕自）	7
所内人事消息	10
研究会同窓会広報（高井 俊行）	12
宮城菽友会の発足（熊谷 満）	14
編集後記	15

なり、第二部会からは、東京大学医科学研究所の一件のみが採択され、第三部会は全滅という結果でした。

環境応答センター予算の不採択に関しては、本学財務部の解析では、前述の国際共同利用・共同研究事業が今年度より新たに開始となるため、学術機関課の事業予算自体がなかったのではないかとのことでした。3月に行われた総長ヒアリングでは、総長から本事業の採択に向け全学で応援してくださるとの力強い言葉をいただきましたので、本部とともに全力で獲得を目指したいと考えています。

旧動物舎の建て替えに関する概算はS評価で文科省に上がりましたが、今年度も見送りになりました。しかし、本件に関しては、民間を活用したPPP（Public Private Partnership）による建て替えを、本部のアセットマネジメントセンターと共に推進することができそうです。詳細は秋の所長室だよりで皆さまにご報告できるかと思えます。

国立大学法人は運営費交付金の削減という冬の時代に突入して久しいですが、今年度の本学の運営費交付金は前年度比で若干の増となりました。これは客観・共通指標に基づく細分対象額が増えたことによります。この指標に基づく配分ですが、相対的評価となるため、どの大学グループ内での相対評価となるかが焦点でした。当初は、指定国立大学内での評価も考えられたため、強い危機感を持っていましたが、実際には、卓越した成果を創出している海外大学と伍して全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取り組みを中間とする全国16大学の中での評価でした。

今年度はとりあえず良かったのですが、問題なのは、これら成果を中心とする実績状況に基づく再配分（要は国立大学法人間での競争的資金）の額が、人件費等の原資である基幹経費に

大きく食い込んでおり、来年度以降、再配分の傾斜が大きくなっていくことです。相対的に低評価になると、人件費の確保にも汲々とする状況に追い込まれる可能性があるのです。

本学の評価で特に低いのは、教員一人当たりの経営資金獲得実績で、16大学中13位になります。ここを改善するため寄付金や雑収入を増やす工夫が部局にも求められています。また、教員一人当たりの研究教育資金獲得実績（共同研究・受託研究等）、運営費交付金等コスト当たりトップ10%論文数なども7位と振るいません。後者は、トップ10%論文の数を、配分した運営費交付金の額で割るという、なかなか、賢いというか、えげつない指標になります。

大学全体の指標の底上げのため、これらの指標をもとにした部局評価が今秋以降行われ、部局の尻が叩かれることになります。文科省も大学本部も、「罰や報酬によって外発的な動機付けを行っても成績は下がるだけ」という教育学の古くからの知見を何故学ばない！」「指標向上のために研究を行うなど大学人としての死を意味する！」と、心の中で叫びつつ、研究所の経営状況をこれ以上悪化させないため、令和最初の所長として少しでも評価書の見栄えが良くなるよう「作文」に注力することになると思います。

昨年度末の研究所の主な動静です。

佐藤靖史先生（腫瘍循環研究分野）が、3月末で定年退職されました。佐藤先生は、1978年神戸大学医学部卒業、神戸大学医学部第三内科を経て、1982年に大分医科大学第一内科に移籍、1985年より助手を務められました。1987年にニューヨーク大学メディカルセンターに留学されたのち、1989年に大分医科大学に助手として戻られ、1994年より加齢医学研究所教授として腫瘍循環研究分野を主宰されました。

「血管新生の制御」をテーマに基盤研究を推進され、血管新生や内皮再生を促進的に調節する ETS-1 の機能を明らかにしたほか、新規血管新生抑制因子 Vasohibin-1 (VASH1) と、VASH1 のホモログ Vasohbin-2 (VASH2) を単離・同定に成功、血管新生に対するメカニズムを明らかにし、これら基礎研究成果の臨床応用の可能性も示されてきました。こうした研究成果は内外で非常に高く評価され、1994 年第 2 回日本動脈硬化学会学術奨励賞、2017 年第 18 回日本動脈硬化学会賞を受賞された他、日本血管生物医学会理事長、日本動脈硬化学会理事長を歴任されてきました。

佐藤先生が加齢医学研究所の基礎老化研究の礎を作ってくくださったことに所員一同を代表して感謝いたします。4 月からは、本学未来科学技術共同研究センター教授として、基礎研究成果の社会実装を視野にいたした研究を継続されます。加齢研も兼務していただけるため、腫瘍循環研究分野は継続することになります。ますますの研究のご発展を祈念いたします。

同じく 3 月末で、プロジェクト研究分野の東海林互先生が退職になりました。東海林先生は本学学際科学フロンティア研究所先端学際基幹研究部准教授（加齢研兼務）として研究活動を推進してきましたが、4 月より地域医療の現場でご活躍になっています。

昨年 12 月には、日本学術振興会卓越研究員事業により加齢研に公募された多くの候補者の中から、野内類先生をテニュアトラック准教授として採用しました。健康認知科学研究分野を新設し、人の適応的な認知プロセスを明らかにする基礎研究や認知的健康を維持・促進する要因の解明や介入方法の開発と実証を行う応用研究を推進しています。

また本年 1 月には、米国シンシナティ子ども病院から中村能久先生を、クロスアポイントを使って准教授としてお迎えし、生体代謝制御学

分野を新設しました。慢性炎症の発症機構の解明、慢性炎症を基盤とする病態の解明、それらを元とした新しい創薬・治療戦略の創生などを進めていただいております。

若い力が、加齢研の将来を大いに飛躍させてくれることを期待しています。

【分野紹介】

認知健康科学研究分野

〈沿革〉

認知健康科学研究分野は、文部科学省の卓越研究員事業（Leading Initiative for Excellent Young Researchers (LEADER)）のサポートを受け、2018 年 12 月 1 日に発足しました。2019 年 4 月現在は、准教授の野内類と技術補佐員の野内治香・高橋久美子・井上あゆ子の 4 名を中心に研究を行っています。

〈研究の概要〉

認知健康科学とは、認知科学と健康科学を融合させた実践的な学問です。個人や社会にとって健康で適応的な精神状態（認知や感情）である状態を認知的健康と考えています。

本分野は、心理学的手法、脳科学的手法、疫学的手法、生活介入などの多様な研究手法を用いて、人の適応的な認知プロセスを明らかにする基礎研究や認知的健康を維持・促進する要因の解明や介入方法の開発と実証を行う応用研究を行っています。また、フィットネスクラブや食品メーカーなど産学連携研究や国内外の研究機関との国際共同研究を通じて、研究成果の社会還元を目指しています。

- a) 1 回生活介入によるパフォーマンスの向上

「ある試験や試合で好成績を残したい」という目標を実現できるかどうかは、個人の学力や

体力や技術といった能力だけでなく、当日のやる気や集中力という状況の要素がうまくかみ合うかどうかによって決まります。例えば、高い能力があったとしても、当日にやる気が出なかったり、集中できなかったりした場合には、目標を達成することは難しくなります。このように、目標の達成に大きく寄与する状況的要因をどのようにしたらうまくコントロールできるかどうかについて研究を行っています。

これまでの成果から、脳トレゲームを1回やった直後や牛乳飲んだ15分後から認知機能が即時的に向上し、1時間程度持続することがわかってきました。将来的にはこの成果を活用して、本番に強くなる方法を提案できればと考えています。

b) 生活介入による認知機能の向上

加齢とともに私たちの認知機能（情報を覚えたり、判断したりする心の働き）は、低下していききます。認知機能が低下すると、当たり前でできていた日常生活が困難になります。そこで、認知・運動・栄養に注目した生活介入を使って、高齢者の認知機能を向上させる方法を研究しています。特に、高齢者にとって、できるだけ負荷がなく、簡単に実施できる生活介入方法の提案することを目指しています。

認知介入研究：音読・計算など日常的な活動を用いた認知介入を実施すると、健康な高齢者の認知機能が向上することを明らかにしました。また、脳トレゲームを実施すると、若年者や高齢者の認知機能が向上し、抑うつ気分が低下することもわかってきました。現在は、パーキンソン患者に対して同様の脳トレ介入を行った場合に、どのような効果が得られるのかを国際共同研究として進めています。

運動介入研究：有酸素運動と筋力トレーニングを組み合わせたサーキット運動に注目し、その効果の検証を行いました。その結果、30

分のサーキット運動を4週間実施するだけで、高齢者の記憶力など広範囲な認知機能が向上することが明らかになりました。現在は、このサーキット運動が脳形態や脳活動に及ぼす影響について研究を行っています。

栄養介入研究：植物に含まれる色素であるフラボノイド・カロテノイドや辛味成分の一種であるイソチオシアネートなどの機能性成分を摂取することで、認知機能や感情状態がどのように変化するのかについて研究を進めています。例えば、ホウレン草などに多く含まれるルテインを継続的に摂取することで、中高年の記憶機能が向上することをシステムティックレビューによって明らかにしました。現在も食品メーカーと共同で、ミルク・プロテインやイソチオシアネートを含むサプリメントを継続的に摂取することの効果を検査する栄養介入研究を進めている最中です。

c) 介入効果の予測研究

各種生活介入の効果には、個人差があることがわかってきました。例えば、精神的健康度が高い高齢者は、認知介入の効果が大いであることを明らかにしました。また、実行機能が高い高齢者ほど運動介入の効果が大きくなることも分かってきました。現在は、認知介入で使う課題を実施中の脳活動から認知課題の効果を予測する研究を行っています。介入効果の予測研究の成果を応用して、介入の効果を最大限に発揮する個人に最適化されて生活介入の提案をしたいと考えています。

〈今後の研究の豊富〉

川島隆太所長をはじめ、加齢医学研究所の先生方・同窓の先生方にご協力いただきながら、認知健康科学研究分野は、スマート・エイジングの実現や認知的健康の推進を可能とする研究を進めていきたいと思っております。今後とも、

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

(文責：野内 類)

【随 想】

加齢研での思い出

佐藤 靖史

はじめに

24年と4ヶ月間、おおよそ四半世紀にわたって腫瘍循環研究分野を担当して参りましたが、この度定年を迎えることとなりました。この間いろいろなことがありましたが、思い出すままに、加齢研での「研究活動以外の出来事」を振り返り、定年の挨拶に替えたいと思います。

着任の頃

平成6年11月末に前任地の大分医科大学を引き払い、12月1日加齢研に着任しました。前任地では大学官舎に住んでおりましたが、引っ越し前に一度下見した川内の公務員宿舎は、同じ間取りながら、大学官舎と比べて明らかに古くて狭く、「同じ間取りだったよ」と家内には言ったものの、建物の古さには触れられず、家財道具が同じようにセットできるかどうかにも一抹の不安がありました。仙台にやって来て、入居する宿舎を初めて見た家内は、只々ボー然。結局荷物は同じようにセットできず、当分使わないだろうと思われる家具とダンボールにひと部屋ぎっしり占拠されてしまう有様で、それだけでなく狭い宿舎で、生活空間はますます狭くなってしまいました。しかも前任地より1時間以上も早く日は暮れるし、十分だった暖房器具も仙台の寒さには明らかに力不足で震え上がってしまい、夜な夜な強風にヒューヒューと泣く電線の音を聞きながら、「こりゃ、何とかせないかん！」と切実に思った仙台での生活の始まりでした。

学寮専門委員会委員のこと

着任して3~4年した頃、教授会の役割分担で学生生活協議会の委員が廻って来ました。当時、この委員は負担が最も大きいため、この役割が振り分けられると他は全て免除されていました。おっかなびっくり最初の会議に出席すると、私は、協議会の中でも特に皆から忌避されていた学寮専門委員会委員に配属されていました。当時、学寮問題は、学生生活協議会の中でも、さらには大学全体としても大問題となっていました。寮の電気料金負担問題が発端だったと思いますが、寮の中に警察捜査の対象にもなるような学生運動活動家が不法に入居していることが発覚し、その退去を求める過程で、自治を求める寮生の抗議活動が活発化していたのです。抗議活動は協議会委員長の自宅にまで及んだため、委員長だった農学研究科の先生が心労で倒れ、事態を重視した当時の阿部総長は、懐刀だった仁田先生を学務等担当の副総長に抜擢、これで大学側と学生側とが一気に対決モードとなったのです。そのため学寮専門委員は常にon-call状態となり、毎週、川内キャンパスで学生が集会を開く度に呼び出され、ある時には事務庁舎前で5時間以上にも亘って学生に取り囲まれて、深夜まで団交に付き合わされたり、ある時には星陵キャンパスが襲われて、加齢研にまで学生達が押し寄せたりしました。その後、仁田先生が先頭に立って毅然とした対応をしたことが功を奏し、事態は次第に沈静化されていったのですが、私としてはこのような学生運動は既に過去の事でしたので、何という大学かと思ったものでした。

ボヤのこと

研究室が実験研究棟の8階東だったころのことです。たまたま何かの用事でエレベーターを待っていたところ、エレベーター前の談話室から、かすかにパチパチというような音が聞こえ

たように思いました。当時、談話室ではスライドを使うことが多く、エレベーター側のガラスの内側には暗幕カーテンが貼られていて、中は見えなくなっていました。その時、なぜか気になって、「どなたか居ますか？」と声をかけながら扉を開けると、談話室は無人で、ベランダに置かれたエアコンの室外機が燃え上がっており、少し開いていたベランダの窓からカーテンに火が燃え移ろうとしていました。慌てて「火事だーっ」と研究室に戻り、居合わせた大学院生たちが研究室の消火器を使って何とか消し止めることができホッとしたのも束の間、ベランダを飛び越えて梯子車から2~3人の消防隊員が談話室に飛び込んで来るし、階段を駆け登って何人もの消防隊員がなだれ込んで来て、談話室とエレベーター前は一転して騒然とした状況となったのです。そのあまりの様子に、改めて事態の深刻さにびっくりすると共に、向かいの大学病院病棟の窓から何人もの患者さんがこちらを見ているのに気付き、その方たちのどなたかが119番通報したことが分かったのです。

たまたま用事があってエレベーターを待っていたとき、虫の知らせか談話室の扉を開けて火事に気付き、大学院生たちに助けられて、何とか消火して事なきを得ましたが、気づかなければ、放水されて大変なことになっていたところで、いま思い返しても背筋のゾーッとする出来事でした。

野球のこと

小学生の頃は野球少年で、憧れたのは月並みながら長嶋茂雄でした。大学生の頃はバスケットボールをやっていましたが、卒業してからはたびたび野球に駆り出され、東京都養育院付属病院時代にピッチャーをさせられて肩を痛めてからは、サードを守ることが多くなりました。今はもうやらなくなりましたが、着任した当時、

加齢研でも野球は盛んで、私も直ぐに駆り出されました。あるとき三条のグラウンドで、帯刀先生がピッチャーで、私はサードを守っていたときのこと。相手チームの中に、名前は分かりませんが、高校時代野球部だった(?)という若い人がいて、彼の強烈な打球が三遊間に飛んで来ました。バックハンドは難しいけど、三遊間の打球は結構得意にしている、思いっきり伸ばしたグラブにショートバウンドのボールがスパッと収まり、絡れそうなステップを我慢して一塁に送球、楽々でアウトにしたのは、今でも忘れ得ないプレーの一つです。そのプレーのことは帯刀先生も印象に残っていたようで、先日ある機会で語って頂きました。

2004年、楽天イーグルスが誕生して直ぐのゴールデンウィーク、宮城球場に観戦に行きました。対戦相手は西武ライオンズで、ピッチャーはあの松坂大輔。当時は松坂の渡米前の全盛期で、1年目の楽天イーグルスは最下位の弱小チーム、とても勝てる状況ではありませんでしたが、奇跡的に勝利を取め、その時以来、私が観戦したときの楽天イーグルスの不敗神話が生まれたのです。時は経過して2013年の読売ジャイアンツとの日本シリーズ。何とか観戦したいものだと思っても入手できたのは最終の第7戦目のチケットでした。第7戦は無いだらうと半ば諦めていたところが、シリーズは7戦目につれ込み、肌寒い雨の夜、観戦に行って参りました。楽天イーグルス3点リードの最終回、ドヨメキと大歓声の中、田中マー君が抑えに登場し、日本一になった瞬間を同じ空間で体験できたことは、これが最初で最後かもしれない、良い思い出となっています。

終わりに

以上の他にも、もちろん東日本大震災と、その1ヶ月後の最大余震の2回にわたり、全く同じように受けた研究室の甚大なダメージは忘れ

ることのできない体験でした。培養操作中、危うく倒れてきたCO₂インキュベーターの下敷きなりかけた大学院生もいましたが、幸い人的被害を出すことなく、特に高層階のダメージが大きかったことから、5階西に研究室を移して貰えることになったのです。

このように、試練を乗り越え、間一髪で危うく危機を免れて、楽しい思い出と共に無事定年を迎えることができたことに感謝しつつ、筆を擱きたいと思います。

【研究員会便り】

研究員会委員長 家村 顕 自

平成30年1月から委員長を務めております、分子腫瘍学研究分野の家村顕自です。研究員会は、加齢研の若手研究者を主体として、研究所内外の垣根を越えた人的交流を促し、研究を活発化する環境づくりを行っています。

新年度を迎えるとともに、新たな元号もスタートいたしました。研究員会も新たなメンバーを迎え、心機一転の気持ちで皆さまの研究の活性化につながるよう活動していきたいと考えております。前年度に引き続き本年度も若手共同研究促進助成金の募集を行う予定にしておりますので、是非積極的に申請・活用していただきたく思っております。また、人的交流、研究活発化につながるアイデアやご意見を随時募集しております。些細なことでも構いませんので、何かございましたら研究員会にご連絡いただけますと幸いと存じます。

研究員会活動内容 (H30.6~H31.5 まで)

<平成30年度研究所若手アンサンブルプロジェクト>

第4回東北大学若手研究者アンサンブル研究会(平成31年1月8日(火)-9日(水))が大崎市で行われ、アンサンブル Grant 採択課題

の発表や活発な議論が行われました。

<研究員会第32回発表コンテスト>

平成31年1月25日(金)午後1時から開催されました第151回集談会での第34回研究員会発表コンテストの受賞者は第1位 Yili Wong 先生(遺伝子導入研究分野)、第2位は松本健先生(神経機能情報研究分野)に決まりました。

表彰式は平成31年1月25日(金)午後6時からの研究員会主催新年会で行なわれました。

<研究員会主催新年会>

日時:平成31年1月25日(金)

第151回集談会終了後

ポットラック形式で行ないました。

<加齢研若手共同研究促進助成金>

平成30年度加齢研若手共同研究促進助成金について、第5回加齢研リトリートで審査が行われ、以下の課題が採択されました。

- ・ Vasohibin によるチューブリン翻訳後修飾を介した細胞機能の解析
腫瘍循環研究分野 鈴木康弘先生
- ・ 免疫受容体の抗原特異性を利用した温熱療法による新規癌治療
生体防御学分野 伊藤甲雄先生
- ・ 迅速な遺伝子改変マウスを用いた知的障害発症モデルの確立
分子腫瘍学研究分野 家村顕自先生
- ・ 文字流暢性において生ずる単語の質的な個人差をみ出す神経基盤解明
ユビキタスセンサー研究分野 池田純起先生

平成29年度加齢医学研究所若手共同研究促進助成金の成果報告会を以下のとおり開催いたしました。

日時:平成31年3月14日(木)10:00~

場所：加齢医学研究所スマート・エイジング棟
1階国際会議室

・ヒト左前側頭葉への経頭蓋直流電流刺激
(tDCS) が単語の意味認識に及ぼす促進的効果の検討

人間脳科学研究分野 石橋遼先生

・がん化における BRCA1/PLK1 相互作用の中心体内での時空間的挙動の乱れ

腫瘍生物学分野 吉野優樹先生

・人に対する優先的注意の定型的・非定型的発達に関わる認知神経基盤の解明

応用脳科学研究分野 小林亜紀子先生

・マルチスケールメカノバイオロジー解析手法による人工心臓合併症の病態解明

心臓病電子医学分野 井上雄介先生

<加齢研研究員会セミナー>

http://www.idac.tohoku.ac.jp/site_ja/news-events/

<http://www.idac.tohoku.ac.jp/site/news-events/>

日時：平成 30 年 12 月 17 日 (月) 午後 4 時～

場所：加齢医学研究所スマート・エイジング研究棟 1 階 国際会議室

講師：鈴木澤朋和先生

所属：ニューロスピン/フランス原子力庁, フランス

演題：橋渡し研究を目的とした小動物 MRI 脳機能イメージング

担当：領家梨恵 (応用脳科学研究分野)

日時：平成 31 年 2 月 22 日 (金) 午後 3 時 30 分～

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟セミナー室 2 階

講師：ツェン チャーフエイ

所属：東北大学 電子通信研究所 高次視覚情報システム研究室

演題：対人暗黙のコミュニケーション

担当：ダリラ ブリン (所属 スマート・エイジング学際重点研究センター・内線 8466/8585)

日時：平成 31 年 2 月 22 日 (金) 午後 5 時～

場所：加齢研実験研究棟 7 階 セミナー室 1

講師：戸村道夫先生

所属：大阪大谷大学薬学部 免疫学講座

演題：カエデマウスを用いた、免疫細胞の臓器間移動情報に基づく免疫系の理解

担当：伊藤甲雄 (生体防御学分野)

研究員会主催 佐藤靖史教授退職記念講演

日時：平成 31 年 3 月 8 日 (金) 16 時～17 時

場所：加齢医学研究所 スマートエイジング棟 1 階 国際会議室

講師：佐藤靖史

所属：東北大学加齢医学研究所 腫瘍循環研究分野

演題：加齢医学研究所での研究生活を振り返る

連絡先：飯田理恵 (所属 腫瘍循環研究分野・内線 8532)

日時：平成 31 年 4 月 18 日 (木) 午後 4 時～5 時

場所：加齢研実験研究棟 7 階 セミナー室 1

講師：原 敏朗

所属：ソーク研究所

演題：腫瘍不均一性の理解から細胞状態のプログラム解明へ

担当：家村顕自 (所属 分子腫瘍学研究分野・内線 8490)

日時：平成 31 年 4 月 25 日 (木) 午後 4 時～

場所：加齢研実験研究棟 7 階 大会議室

講師：細野祥之

所属：愛知県がんセンター研究所・がん標的治

療 TR 分野

演題：ゼブラフィッシュを用いたがん研究

担当：林 陽平（所属 医用細胞資源センター・内線 8572）

日時：令和元年 5 月 24 日（金）午後 4 時～

場所：加齢研実験研究棟 7 階 セミナー室 1

講師：前澤 創

所属：麻布大学 獣医学部

演題：生命の連続性に迫る一生殖細胞のエピゲノム形成機構

担当：林 陽平（所属 医用細胞資源センター・内線 8572）

＜加齢研交流セミナー＞

・交流セミナーとは：

平成 22 年度から研究員会の主催で実施されている加齢研内の研究室間交流セミナーです。年 4 回、毎回 2 研究室ごとに発表者を選出して頂くという形式で開催しています。演者は原則教職員としていますが、ポスドク、学生などなたでも構いません。加齢研の他研究室の研究を知る非常によい機会となりますので、皆様ふるってご参加ください

・発表登録研究室（H31 年 3 月現在）：

遺伝子発現制御分野、遺伝子導入研究分野、生体防御学分野、基礎加齢研究分野、腫瘍循環研究分野、分子腫瘍学研究分野、腫瘍生物学分野、神経機能情報研究分野、応用脳科学研究分野、人間脳科学研究分野（脳機能開発分野）、医用細胞資源センター

*セミナーの聴講は上記の分野に限らず、加齢研所属のどなたでも可能です。

*発表研究室の追加は随時受け付けます。

連絡先：齋藤（研究員会事務局・内線 8576）

・発表にあたって：

質疑応答含め 30 分を目安に内容の作成をお願いします。内容は最新の研究成果や発表者の

興味のある課題等、何でも構いません。参加者のバックグラウンドは多様ですので、専門家以外にも分かりやすい発表を心がけてください。使用言語は日本語、英語のどちらでも構いません。

特許申請などに関わる情報の取り扱い、発表者の自己責任といたします。守秘義務について署名等が必要な場合は、研究員会事務局までお問い合わせください。

・聴講にあたって：

本セミナーにて発表されたデータを発表者の承諾なしに撮影・録音すること、また、発表者の承諾なしに研究内容を口外もしくは、インターネット等を介して第三者に公開しないでください。

上記、__部分を追記（H30.11.28 研究員会定例委員会にて承認）

平成 30 年度

第 3 回加齢研交流セミナー

担当：人間脳科学研究分野、神経機能情報研究分野

日時：平成 30 年 12 月 6 日（木）午後 4 時から 5 時 10 分

会場：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

1. 自伝的記憶の時間特性に関する心理学・脳科学研究

講師：人間脳科学研究分野 大場健太郎先生

2. 小椋研の geroprotector drug discovery

講師：神経機能情報研究分野 小椋利彦先生

第 4 回加齢研交流セミナー

担当：腫瘍生物学分野、遺伝子導入研究分野

日時：平成 31 年 2 月 28 日（木）午後 4 時から 5 時 10 分

会場：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

1. 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の発がん機構の解明と治療法の開発

講師：腫瘍生物学分野 千葉奈津子先生
2. 免疫抑制性受容体の免疫学的役割とその臨床応用

講師：遺伝子導入研究分野 遠藤章太先生

<今後の予定>

加齢研新人研修会

日時：令和元年5月20日（月）午後1時15分
から

場所：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

研究会総会

日時：加齢研新人研修会終了後、午後5時30
分から

場所：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

司会：家村顕自研究会委員長

1. 議長選出
2. 出席者・委任状の確認
3. 平成30年度の決算報告
4. 研究会規約、研究会委員長副委員長選挙規定の一部改定について
5. 令和元年度予算（案）
6. その他

新入会員歓迎会

日時：研究会総会終了後 午後6時から

場所：加齢研実験研究棟 7F セミナー室 1

第152回集談会（R1.7.19）での研究会第35
回発表コンテスト

表彰式は令和元年7月19日（金）午後5時30
分からの園遊会で行ないます。

【研究会同窓会広報】

庶務幹事 高井俊行

庶務報告

1. 研究会同窓会会員の確認（令和元年5月現

在）

会員数 2,023名

（所内在籍者205名、所外783名（過去5
年間の会費未納者は、276名で加齢研ニュー
スは送付していません。）海外93名、退
会者487名、物故者282名、住所不明173名）

賛助会員 25施設

購読会員 17件

物故会員（平成30年12月～令和元年5
月までの間に事務局に連絡がありました。）

三浦 裕先生 平成30年5月31日

抗研癩

宮川 コウ先生 平成30年7月7日

抗研微生物

高橋 徹先生 平成31年1月23日

東北大学名誉教授

加齢研病態臓器構築

山口 淳二先生 平成31年2月21日

抗研内科

杉山健二郎先生 平成31年3月25日

抗研病理

今野 淳先生 令和元年5月3日

東北大学名誉教授 元抗

研所長 元抗研附属病院

長 抗研内科

2. 第151回集談会

日時：平成31年1月25日（金）午後1時
から

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジ
ング研究棟 国際会議室

一般口演10題

第26回加齢医学研究所研究奨励賞授与式・
受賞記念講演

26th IDAC Young Investigator Award Cere-
mony and Lecture

Dynamic regulation of supramolecular com-
plex kinetochore during cell division and its
roles in the maintenance of chromosomal

stability

Masanori Ikeda 池田真教

Dep. of Mol. Oncol., Inst. of Dev., Aging and Cancer, Tohoku Univ.

加齢医学研究所 分子腫瘍学研究分野

3. 加齢研セミナー（平成30年12月～令和元年5月の間に開催されました。）

平成30年11月12日（月）15:30～ 加齢研スマート・エイジング研究棟2階セミナー室

講師：Tsai, Hsiu-Mei

所属：Department of Adult and Continuing Education, National Chung Cheng University

演題：The development of senior and inter-generational learning in Taiwan

担当：応用脳科学研究分野 川島隆太

平成31年1月28日（月）17:00～18:30

加齢研実験研究棟7階 大会議室

講師：居原 秀

所属：大阪府立大学大学院理学系研究科

演題：イミダゾールジペプチドによる抗酸化メカニズムの解析

担当：遺伝子発現制御分野 本橋ほづみ

平成31年2月21日（木）17:30～

加齢研実験研究棟7階セミナー室1

講師：大森泰文

所属：秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座

演題：細胞内コネキシンによるストレス適応応答とがん幹細胞自己複製

担当：呼吸器外科学分野 岡田克典

平成31年4月3日（水）13:00～14:30

加齢研スマート・エイジング研究棟2階セミナー室

講師：Sebastian Jentschke

所属：Department for Psychosocial Science, Faculty of Psychology, University of Bergen

演題：Statistical learning in the developing brain: Towards early diagnosis of impaired language acquisition

担当：応用脳科学研究分野 川島隆太

令和元年5月13日（月）17:00～18:30

加齢研実験研究棟7階 大会議室

講師：奥津光晴

所属：名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科

演題：骨格筋の恒常性維持機構の分子メカニズムを探る

担当：遺伝子発現制御分野 本橋ほづみ

令和元年5月15日（水）16:00～18:00

加齢研スマート・エイジング研究棟2階セミナー室

講師：Damian Birney

所属：School of Psychology, University of Sydney

演題：Interdisciplinary challenges to knowing and understanding individual differences in the limits of cognitive malleability

担当：認知健康科学研究分野 野内 類

4. 加齢研ニュース発行

70号 平成30年12月

71号 令和元年6月

今後の予定

1. 第152回集談会

日時：令和元年7月19日（金）午後1時から

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジ

ング研究棟 国際会議室

一般口演

2. 令和元年加齢医学研究所研究会同窓会総会、懇親会（園遊会）

日時：令和元年7月19日（金）

総会 集談会終了後

懇親会（園遊会） 加齢医学研究所
スマート・エイジング研究棟 1階
ホール 午後5時30分から

3. 第153回集談会

日時：令和2年1月頃予定

場所：加齢医学研究所 スマート・エイジ
ング研究棟 国際会議室

4. 加齢研ニュース発行

72号 令和元年12月

73号 令和2年6月

【お知らせ】

宮城萩友会の発足（平成30年9月）

宮城萩友会会長 熊谷 満

宮城萩友会は、平成30年9月29日（土）の東北大学111周年ホームカミングデーにおいて、正式発足の報告を行ないました。

前年の110周年ホームカミングデーで設立宣言を行ない、このたび正式に発足したものです。改めて、多くの皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

宮城県にはこれまで全学的な同窓会がありませんでしたが、今回の設立を機に、東北大学のお膝元の同窓会組織として、物理的にも心理的にも母校に密接した同窓会拠点として、学部や世代を超えて親睦を深め、公私にわたり交流を図れる仕組みづくりを目的として活動するものです。仙台・宮城の復興・振興と社会・文化の発展に貢献し、これにより東北大学のより一層の発展に貢献できるよう努めてまいります。

本会の運営体制は、発起人会の各委員が所属



注：熊谷会長（左から3人目）と役員一同

していた7団体（東北電力、七十七銀行、宮城県、仙台市、ソニー、トーキン、仙台地区経和会）を基礎にしながら、今後、本会の活動趣旨に賛同いただける県内の企業・団体等にもご参画いただき、少しずつではありますが、組織化と体制強化を進めていく予定です。とくに、東北大学萩友会の基礎同窓会である10学部同窓会（文・教・法・経・理・医・歯・薬・工・農の部局別同窓会）とは、学部や組織の垣根を超え、横断的な連携を行なっていくことにより、各同窓会の活性化に寄与するとともに、本会及び東北大学のより一層の発展に繋がるものと考えております。

今後は主として、毎年秋に開催される東北大学ホームカミングデーのホスト役として、東北大学ならびに東北大学萩友会とともに、母校を訪れる同窓生に対しては、主催者の一員としての役割を積極的に行ない、一般市民の方々に対しては東北大学をより身近に感じていただけるようホスピタリティをもって接し、母校の発展にとどまらず、この宮城を盛り上げていきたいと考えております。

皆様の深いご理解と温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

[編集後記]

6月にローマで開催される学会に参加します。せっかくなのでローマを中心にイタリアの

歴史を勉強することにしました。アマゾンで何冊か評判の良さそうな本を買って読み始めたのですが、改めてその歴史の厚さに押しつぶされそうです。何しろローマ帝国の最盛期が1世紀。市民は仕事は奴隷に任せてコンクリートをふん

だんに使った競技場やスパリゾートで日々の生活をエンジョイしていたわけです。そこからの衰退の歴史に、これから我々が学ぶべきことが沢山ありそうです。

(杉浦 元亮)